

第162回

市町村職員を対象とするセミナー

地域包括ケアシステムにおける
薬局・薬剤師の役割

(一社)酒田地区薬剤師会
会長 佐藤義朗

山形県庄内地方の位置と交通

秋田市まで
100km
2時間

神奈川県
2,416 km²
9,116,252 人
(2015.5推計)

山形県
庄内地方
2,405 km²
278,849 人
(2015.5推計)

人口は26倍差
だが面積は同じ

気仙沼

仙台市まで
160km
3時間

新潟市まで
160km
3時間

山形市まで
110km
2時間

庄内空港→羽田空港(ANA1日2往復) 1時間



庄内二次医療圏 概要

<人口> 284,845人

※平成25年10月1日現在

- ・ 酒田市107,685人、 ・ 遊佐町 14,668人
- ・ 三川町 7,688人、 ・ 庄内町 22,269人
- ・ 鶴岡市132,535人
- ・ 高齢化率 30.9% 出生率 6.6%

<救急告示病院>

・3次救急医療機関：

★日本海総合病院（646床）

・2次救急医療機関：

★鶴岡市立庄内病院(520床)

鶴岡協立病院(201床)

酒田市立八幡病院(46床)

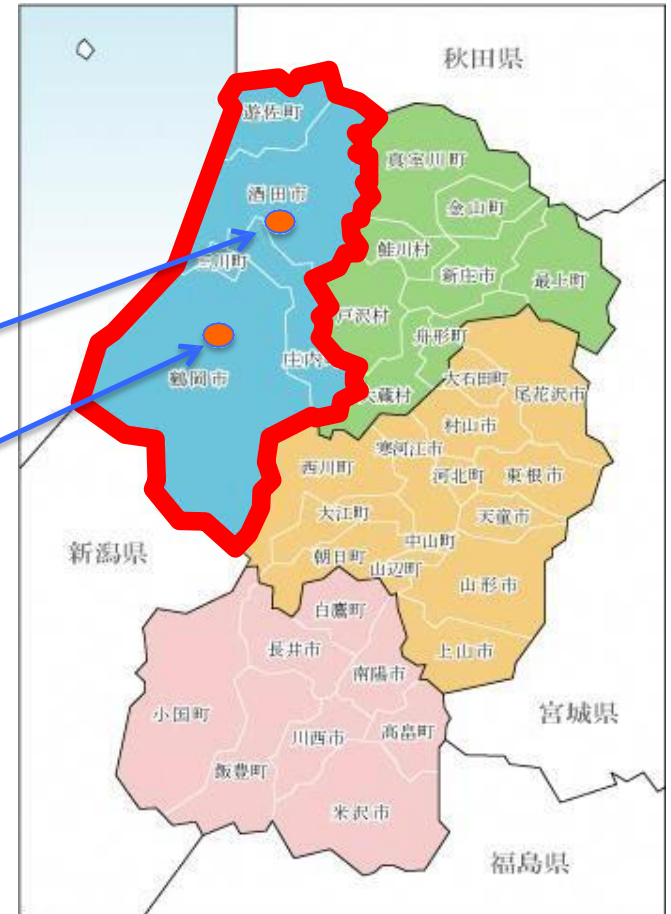
★本間病院(154床)

★山形愛心会庄内余目病院(324床)

<その他：情報開示施設など>

★Net4U(鶴岡地区医師会)

★日本海総合病院酒田医療センター

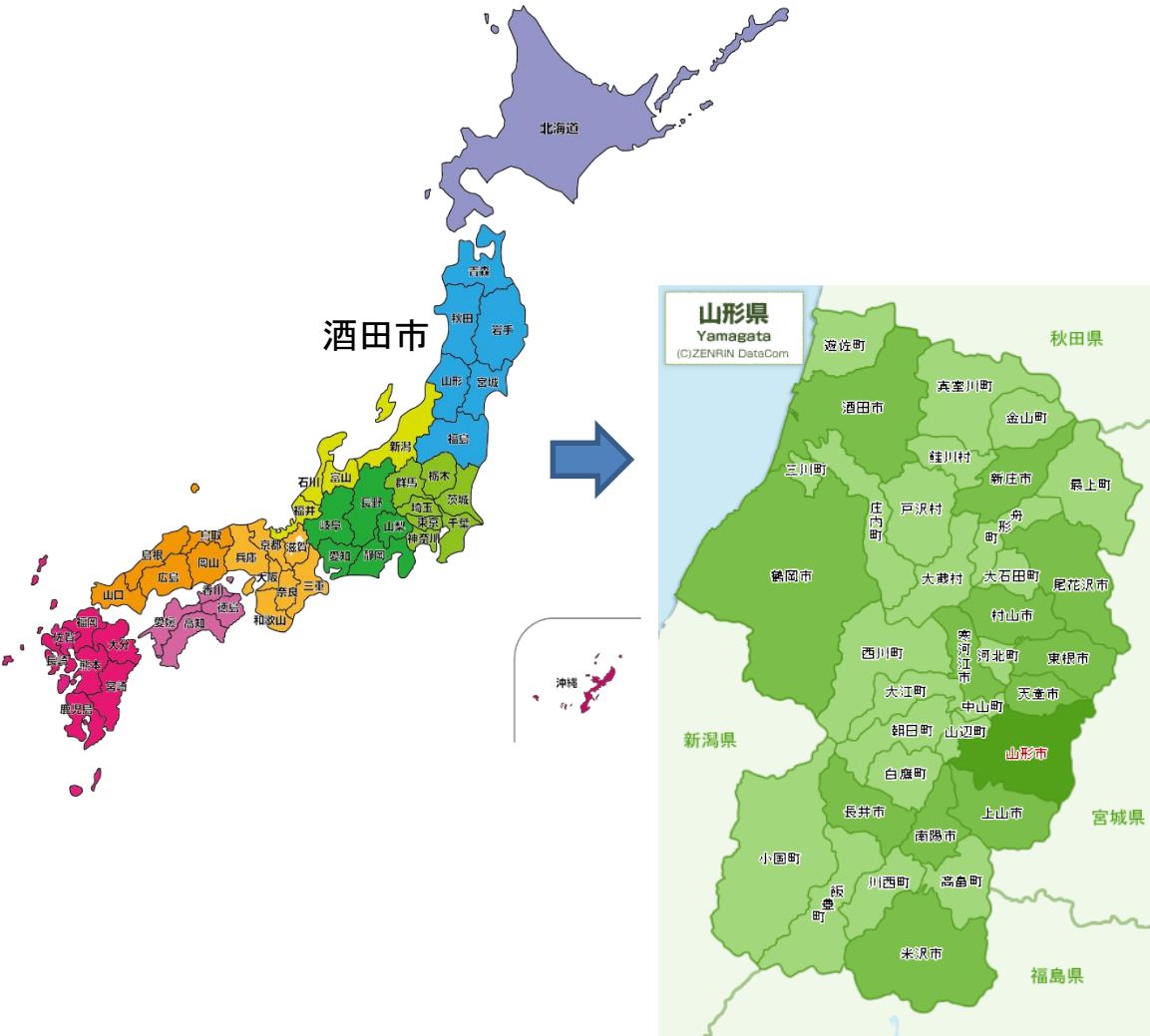


酒田地区薬剤師会

- 調剤薬局数 64薬局(2022年7月現在)

市町名	人口
酒田市	100,320
遊佐町	13,033
庄内町	20,160
合計	133,513

令和2年国勢調査人口速報集計より



日本海総合病院

- 山形県立日本海病院と酒田市立酒田病院が統合してできた病院
- 病床数630床の急性期病院
- 薬剤師数 33名

酒田地区の地域課題

- ・少子高齢化人口減で、限られた医療資源や財源をどう守っていくか？
- ・持続可能な保健、医療、福祉のサービス提供体制
- ・高度化する医療
- ・大規模災害への対応

酒田地区薬剤師会の取り組み

1. 地域医療連携推進法人
「日本海ヘルスケアネット」への参画
2. 在宅医療などについて
3. 行政や関係諸団体との連携
4. 課題への今後の方向性

1. 地域医療連携推進法人 「日本海ヘルスケアネット」

- ・2018年に設立（最初は8法人。）

（令和4年9月2日 現在13法人。）

- ・理念

急速に進む少子高齢化、過疎化の状況の中で、山形県が進める地域医療構想の実現を図り、地域包括ケアシステムのモデルを構築し、医療、介護、福祉等の切れ目のないサービスを、将来にわたって安定的に提供することを目指す。

運営方針の一部

- 地域包括ケアシステムの構築を行政と共に進め、地域住民が住み慣れた地域で、切れ目なく適切な医療、介護、福祉、生活支援が提供できる取組みを進める。

日本海ヘルスケアネットに酒田市加入 地域の連携さらに

- 地域医療連携推進法人
「日本海ヘルスケアネット」の理事会は
令和4年8月10日、
自治体として初めて酒田市が加入することを承認した。

市の加入で地域一体となった包括ケアシステムの構築に向けた連携が一層強化されることが期待される。

- 地域医療調整監が出席し、
「日本海ヘルスケアネットの一員として、
これまで以上に連携を強め、
将来にわたって地域で医療、介護、福祉の
切れ目のないサービスが提供できるよう
一緒に取り組んでいきたい」と挨拶した。
- 今後は地域包括ケアシステム構築に向け、
即時的かつ財政面などの具体的な情報共有
を図り、より主体的な関わりをしていくことが
期待される。

地域フォーミュラリの導入

2018年4月

地域医療連携推進法人

「日本海ヘルスケアネット」設立

日本海総合病院、
酒田地区医師会、歯科医師会、薬剤師会
本間病院、山容病院、社会福祉法人など
計13法人が参加

- 経営の全体最適化
診療機能等の集約化
機能分担
医療介護者の派遣体制の整備
医療費の削減

地域フォーミュラリについて
地区薬剤師会から提案

検討を開始

地域フォーミュラリの提案

患者に対して

有効性、

安全性、

経済性、

の観点から選択されるべき

医薬品集および使用指針

現在11品目 作成

年間薬剤費比較（41調剤薬局）

	2019年	2020年	年間差額
PPI	131,707,644	123,775,463	7,932,181 円
ARB	111,508,174	91,415,223	20,092,951 円
α-GI	9,816,112	8,515,257	1,300,855 円
statin	91,712,834	79,945,030	11,767,804 円
ビスホスホネート製剤	22,361,239	17,616,354	4,744,885 円
ヒスタミンH ₁ 受容体拮抗薬	96,629,004	84,042,836	12,586,168 円
合計	367,106,003	321,267,327	58,424,844 円

47調剤薬局の年間節約費用推計 7303 万円

（41調剤薬局のシェア率を80%と仮定して）

年間薬剤費比較

41調剤薬局

	2019年	2020年	2021年
PPI	131,707,644	123,775,463	118,686,038
ARB	111,508,174	91,415,223	85,872,317
α-GI	9,816,112	8,515,257	7,262,485
statin	91,712,834	79,945,030	73,862,316
ビスホスホネート製剤	22,361,239	17,616,354	12,993,482
ヒスタミンH ₁ 受容体拮抗薬	96,629,004	84,042,836	73,937,281
合計	463,735,007	405,310,163	372,613,919
前年との差額		-58,424,844円	-32,696,244円

47調剤薬局

	2019年	2020年	2021年
ARB + Ca拮抗薬		75,572,528	62,937,695
プレガバリン		77,628,153	38,278,915
バラシクロビル+アメナメビル		16,646,506	16,446,311
合計		169,847,187	117,662,921
前年との差額			-52,184,266円

上記総削減額 —143,305,354円

(調剤情報共有システムより)

2. 在宅医療について

- ・カイエイ薬局を、在宅医療推進の窓口（基幹薬局）としている。
- ・カイエイ薬局にクリーンベンチを設置し無菌調剤が必要な患者に対応している。
(R3年度29枚 R4年度22枚)
- ・「ケアマネジャーさんとのケース検討会」
年数回開催

3. 行政や関係諸団体との連携

- ・「新型コロナウイルスワクチン集団接種薬剤師業務委託契約」を締結し薬剤師を派遣。
- ・「薬物乱用防止教室」(R2は24回 R3は20回)
「自治会」への「お薬講座」(介護予防講座として)
- ・「情報共有システム」により、ポリファーマシーや「習慣性依存性ある処方箋医薬品」の情報交換

4. 課題と今後の方向性

- 薬局経営者の高齢化と後継者難。
- 高度化する医療への対応。
- ポリファーマシーへの対応。
- 大規模災害時の医薬品安定供給

課題への対応

- 「電子処方箋」の先行導入による実証実験。
- 「地域フォーミュラリ」による
薬物治療の標準化。
- 「ちょうかいネット」や「薬剤情報共有システム」

課題への対応(カイエイ薬局として)

- 「薬局間連携のまとめ役となる薬局」とする。
- 「専門性が高い薬局」とし、医療依存度が高い患者を受け入れる。
- 防災に強い薬局(自家発電装置設置)
数日間の備蓄。

- 公益的な薬局。(地元へ利益還元)
- 365日営業。(GWや年末年始の対応)
- 「薬学生研修センター」による地元定着。

ご清聴ありがとうございました。

(一社)酒田地区薬剤師会